

総社商工会議所  
「経営発達支援計画実施への外部評価」について

平成29年度実施事業に対し、下記の評価・意見をいただきました。  
評価・意見を踏まえ、30年度事業を推進いたします。

## 【評価・意見】

### ① 専門家A

(評価できる点)

- ・単発の支援ではなく継続的支援ができています。
- ・経営指導員のフォローがしっかりと出来ており、伴走型支援が成立している。
- ・現状分析の支援に止まらず、対策まで踏み込んだ支援をしている。
- ・会員企業、会議所、専門家の3者がディスカッションでき、全ての立場に当事者感が生じている。

(改善点)

- ・専門家の顔ぶれがここ数年でほぼ固まっている状況の中で、専門家同士の連携や情報共有の強化をはかることも必要ではないでしょうか。
- ・複数の専門家による合同セミナーを開催し、参加者同士の交流をはかり、同時に専門家相談への誘導をはかってはいかがでしょうか。

### ② 専門家B

(評価できる点)

- ・異なる分野の専門家を課題に合わせて活用できる。
- ・定期的に経営相談が可能である。
- ・会議所と専門家の役割が明確である。
- ・フォローがある（他の専門家制度のようにやりっ放しではない）

(改善点)

- ・統括的機能（高支援）がなくなったことで全体的な支援が減少した。
- ・専門性の高い包括的支援のイメージが減少した。
- ・新たな指導員の方の育成機能を専門家が担えていない。
- ・計画から実行まで伴走でやる案件を増強する。  
    《①事業コンセプトの設定⇒ ②各分野の策定支援（各専門家）⇒ ③事業の進捗確認》

### ③ 専門家C

(評価できる点)

- ・企業の強みを引き出して目標設定し、その目標に向けて伴走する仕組みができています。
- ・支援を受ける企業、専門家、そして会議所職員のスタンスが明確にできてきている。

(改善点)

- ・小規模事業者持続化補助金申請につながった企業は別として、単発の支援で終わっている企業へのフォローが必要ではないでしょうか。会議所職員でサポートされている場合は、その状況を専門家へフィードバックして共有化をはかる。
- ・個社支援の後に、必要に応じて、専門家が連携した合同支援も必要ではないでしょうか。
- ・企業により温度差があるのも事実。私たち専門家の立場で企業のやる気を引き出す努力も必要である。
- ・支援の入口の部分でモチベーションアップも必要である。

④ 金融機関

- ・小規模事業者に寄り添ったものであり金融機関が単独で取り組むことは難しい。専門家と職員との連携した継続的な支援であり高く評価している。
- ・さらなる専門家の充実も考える必要があるのではないかと。
- ・「伴走型支援事業」の周知が十分でないように感じる。

⑤ 総社市商工観光課

- ・高度専門家中小企業支援制度や専門家派遣制度などにより、経済社会の変動に大きく影響を受ける小規模事業者の持続的な発展のための、地域に密着した身近な支援機関として機能している。
- ・各種調査活動を活発に行うことで、地域の経済動向を的確に捉えており、今後の小規模事業者支援に活用することで、よりの確で、きめ細かな伴走型支援を期待できる。
- ・課題として、後継者不足や事業承継、人手不足の問題があるため、事業所のモチベーションを保ちながら人材育成を図り、継続的な発展を支援していくことが挙げられる。

⑥ 総社商工会議所正副会頭

- ・地域活性化への貢献が評価され、日本商工会議所から表彰を受けた。このことは伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し取組んだ成果であり、引き続き企業支援と地域活性化が連動する事業として展開して欲しい。
- ・企業・地域にとっての「気軽な相談窓口」という役割を認識し事業展開しており、引き続き企業支援に取り組んで欲しい。また「パンわーど総社プロジェクト」は時代の変化を捉えた事業であり、継続してさらなる効果をあげて欲しい。
- ・他地域での効果的な取組みを研究し事業展開を考えてはどうか。必要に応じ視察も良いのではないかと。

以上